百詠和歌

上

宮光行作

和書門
二五六七三 類號
六八 函
一一 架
二 冊

359
内閣文庫
和書
二五六七三 類號
二 冊
二一 函
一三 架

和歌

内閣文庫
番號 和 25673
冊數 2 (1)
函號 201 359

201-359

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

書籍
銅印

百詠和歌序

夫鄭國公始賦百首詠之詩以論于幼蒙張庭芳追述數千言之注以備于濱鑑是以壮之首学之同者之今抄之所謂四韻之間取二句一題之中綴兩哥是也伏以詩者唐室之志歌者我朝之風也弔天性之拙雖蘭碎金歌動之響宿習斯深擯耽中動外形之詞忘裏

幾徳文庫
和學講談所

服雪久術白氏に（斉し）菊山道坂霞專慕
赤人に躋仍詠二百四十五寄成一千有
二に奏縱願象承盛字に性何耐疾鶴
思ふに志者年二十時元久元初に冬凍
朝議丈夫源定行病中録之而已

りちあまりまりとれのとりとさ雷図
れ子里の源ちり作ちりみちりあま
里一りれりといりりふ
りまりと詠まれるとれおりるわ
これ月　一毎きひりまりけ
のをれとれりのりをれりる
とりまれこれをりとりを園と
ちりりりとりりとりを意乃中ふ

雷鳴ありて方丈の内に向ひ北に拡
と云の角より蓋を打ちる時に鐘の音
人々思ひを移りつゝ事なし依
之十戒の首座を請て四角(シカク)奇心
と云るゆゑ蓋宗旨の中と云て
ひそ南北数ゆきそ二百年(アマリ)
方と連く一十(トヲ)有(アマリ)二のまれをもつて
もたらひ秋の風はみてうふあ

ゆきをつゝ絶ちて家内の
ゆるゆるを習ふ思ふ人々
于時元久の年神無月のゆき
くりとなんつる

百詠和歌第一

天象部

日　月　星　風　雲　煙　露

霧　雨　雪

日

日出　扶桑路　文武天皇

うらゝかひとつ雲もなき春のそら
そよ吹く風に花の香ぞ立つ

本所より長さ拾弐丈二尺余周仙人
掌北斗の如くそそり新金文
北斗と空を蔽ひる千歳を一日
實に心を空あるべからず
其香しき接葉こ生ずる日蓮
しらべく接葉を生ずる所なるよ
しらべく接葉を生ずる所なるよ
若し戸北斗の如くそそり
若し戸北斗の如くそそり 末法を出る日蓮

ゆゑに孫の里を
傾心は蓼藍 あひ草の日新北の
くはしくしらべて根をかの
正月朔日は東北少よい西南よ
葉をかの南くとあり根をあるも
家のあひ草にひとしてひ
ひと人を問ふ名
よしひとをもつて

作山のちよ日ハ朔日よりあすかの草
をのりかけのをすゝよし給ふ

月

蓂開二八時　堯の時世おさめ給ひ
政をおこなはせて瑞(スイ)草(サウ)蓂(メイ)莢(エイ)庭に生ひ
ける月の始より一日に一葉つゝ
の葉開く十五日まで十五の葉あり十
六日より又一葉つゝ日に一つ落葉してはらりて

晦日に至りてはみなちりて小月なれば
一葉のこりてしほる
又云は此ちりける草を葉のかずを見て十
六日より又一葉つゝおちけるゆへにこれを
蓂莢とこそいひけれ二八の時とそ此草を
くれ字蓂莢はひらく葉は散て蓂莢は開二
八のとれきれと此草に暦をしる
又月なからに桂ありて十五日まてつもる

あふさかふ河らなかりとこそ
きえてしまへはみちれゆく月影の
くもりは花のおもかけなりけり
合璧磨鶴鏡　月の一片若破鏡と
云光をまゝれとは月影をしるなり
青女花とこあるを春の其たゝれたりある
ひくいつきそ已に関へゆくとれ
鏡ともまうて　かく鏡つれてうなれと

しくさなりぬるの女宮すまして
きりはまうさかりんか河のたふかく
しはりふとひそ花ともれうみと一り
なりぬおもしあるきておりひきりぬ
後の人鏡にそうしなうおとう
けきりふれしは鄧の人當文せい
なり
なそをこし　昔れのきこえのなりきて

あひだ月ゝ頻なりきと

星　曷郡霊撈（サ）峰　天河（ヤ）と一流

きたる青海浦ふとしあり年より

六月ようき来りて七月きはまり

と朝と夕とに氣ありて

ときまりのうてひそて

日ゝ氣のうなもなし

四月遠ゝ見て一ゝ家ゝ見ぬう

ちゝ屋舎あるとゝ生かあること

ゝ地女ゝ見れ

ときあるとゝかい汐きの所ゝ同ゝ

海ゝうて曷郡の巖岩年ゝ

岩ゝ技石ゝ

角ゝ年ゝ

年ゝその月ゝ岩星（セイ）年

とうとうとめてきさ則海の天河よりて生
ずるなりといふ
天ふ之家人をあつめ給ひて河
くをしらしめ給ひし事
令尹潁川曲 誰識聚賢人
後漢書に云陳仲子姪と共荀季
和ふりしてこの家父子潁川人なりとし
よ天ふ德星あつまりる大史奏して申
さく文星中ふ賢人あつまる
とあるところ陳寔なりけりと仲
ちと云ふ荀淑ふ字氏季和とあり
いふあつて星ふ屋とあつまひ給ん
ゆゑもあるよふなりけりと
風 天地のうけて風となる清濁いり
て風となる世あるとしいふなり

風一夕ひゝく其風枝をうこかす
とゝり

松琴入兼琴　琴有風入松曲也以
心兼風松と為きゝて作琴似響也
ゆゝしき心ゆきは
風ふきて雲のゝこりなり音也

若至蘭臺下　還掃楚王襟
宋玉風賦云　楚襄王在蘭臺
之宮有風颯然而至王乃披襟而當之也
心あきらかなるゆきは
花のうへにれをとゝまるゆゝ風

雲　烟煙百年樹　烟煙いとゝ久敷也
治陽殿の前にある大なる檀樹あり一名
若と百年樹とゝり
月と雲と雲井とゝ

[illegible]

捨映（ス）三秋月　通雲真徒（ニ）日月の
きらめきんとすれども家宅蔽（ス）
[illegible]（ジ）と云う三秋と云は一月を一秋とす
三月い三秋也
[illegible]
[illegible]

煙　瑞氣遠（ニ）丹闕（ノ）慶雲多[illegible]
煙れるとみて[illegible]
[illegible]す次郡（イツ）を[illegible]
とぞ
[illegible]海の煙[illegible]
人のうみれ[illegible]
松篁（ハ）暗（スン）暁暉（キヲ）
[illegible]

[illegible]

露　夜警（ケイ）千年鶴（ツル）　家（イエ）に[illegible]

[illegible]まい千年鶴（ツル）とぞ　きてまし八月

白露は[illegible]

[illegible]

秋の[illegible]

[illegible]

[illegible]

朋輩（ホウハイ）八月風（ハツゲツフウ）　孟秋涼風（モウシウリヤウフウ）則白露

降（クダル）　文云漢（ブンウンカン）桓帝（クワンテイ）時（トキ）[illegible]

[illegible]　永康（エイカウ）元年

秋八月天[illegible]　其露[illegible]

文云蓮（ハス）の[illegible]

きゆ[illegible]朋[illegible]

[illegible]

くもんとすゑをとぞり
露の所は此草のつゆにかゝるなれ
きせかのすまをよむやいみ

霧

漢帝出平城　漢高祖韓信とう
ちゝ所ふみ韓信かいくさして高祖
をとなむ城ふこもりと雲霧
雨雷くもりて世中くれかゝりかる

高祖陳平かはかりことに随て洪ま
きれふぬけのかまぬかり又淮陽ゟ
ゑまてきかまとすかしぞり

振人のきりふまよひしみなしかそ
しらの月おもといのこまゆみかなる

剣有丹山之霧　丹山は丹穴也霧れ
かし又云天晴て丹山の峰よ傚ふ
きりゑちて標のかそしそれ故云日さ

とゝすゝ雨必ずとゝり
角者てみさ御の穴より音み
きさしのくゝ乃ちとゝ
雨　世中の人角者ゝ北十日より雨
一ゝなくゝ家ゝ其雨はらゝれとやふ
らひとゝり
靈童出海見上　青馬高(ケイ)　八月廿五日
日河より引くく水とあむとて北里志
ゝて河海神とゝり奉て祈里へ尾
いゝて黄金色白馬あ来て中
二乃童子上ゝり水の上をとゝ渡
引て西をたゝり
川上の宮ゝ引ゝ入ゝ
あゝ家外ゝ
神女白山廻　青蓮王高唐ゝあゝて

ひく毛ふまきとゆを立て毒気ちふ
ゆきてうて きてみう毒ふあるし氏
きて 拍をうるひうとてふんと
初んてうみのそうり玉あひ沿ふ女海
呵ふのうみくいて 妄い亟山の陽る
丘の 凹 ふあり 朔ふ雷とうち分ふ
とうりて 朔と 蓋 ふ 陽 ふ 北 ふと
おきてうんふ云てうりぬうちふ出ふ

朔ふ雷ふのひなふ分ふ面をけ星
雷とうち雨ふうり雷ふるるふ北て
朔ふくうれしゆふ北 鷲 星

雷 陽雷 警 千星 一尺ふ見て海雷い
北年北陽ふあうとたとうり
雷ふう麦ありまれあうふまて
あ北うけうふ白河北ふ

大国天閣路　今日海神朝

国乃武王殿付とうとうと行

ようやくこふを付て雷ふ

家事十分合ふ一度ゆえて

至ねとれみ国乃事ふるを

門の外ゆ海て行ま

付とうとうとひとうふ事る

給ふ海神の天付使て高

家ケを考り沢ゆみふ事とそふ

給ふと花ひし雷ふ人すて

ゆきふふ出ふ

百詠和歌巻二

坤儀部

山 石原野 田 道 海

江 河 沼

山 石壁丹青色 石壁みゆるかな 言

文数わかるこゝろ 北景色 氏壁

北嶺 ゆるかな 尊孝 標詠 云

雨滴隠山新風吹消象耕雲
あ[illegible]山のこと[illegible]
[illegible]

已用封禅廟　希謁聖明君
[illegible]岳か黄河の東に封して青陽に
神靈の動くを見て[illegible]
[illegible]見乃ち有りしこと
[illegible]已に用て請聖君封禅す

[illegible]乃山[illegible]
[illegible]
[illegible]

石巖[illegible]鏡裏[illegible]　武[illegible]丈[illegible]て
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

石中蘇花教

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

原　江滝起源　江滝ノ源ハ藏王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世の代かゝりし　みな以他豊に広く
してもならひとつきとるともとあり
ちをうれむもくもの京や秋風の
くれ猶くましいう鶴をなからうれし
長在鶺鴒篇に　鶺鴒は水鳥の也それからさ
さすゆかれたちし尾をうごくとせなか
の真書をもちいをかり腹れ冬白くて
くひれたる黒しそ翅よ椎鳩れ人

かけまて連楼とよりものの鳥水を
られまそ原はあり占れ浪をとひ
くちひよ代よひくあくとより
鶴里は河をれよひしきもの鳥れ
わもをなくきれ原に住くなり
野　鶉毳楚寒空に　鶉尾は楚合野也
鶉は黒宿并軟宿にわくまうて方也鶉は

これ神のみこゝろなり
あまやこれはやとのゑりも龍なく
うたのはくれ時ハまた舊
獨在傳巖中ニ殷武帝位につきて
後三年まつりことをいはす夢の中に
傳説といふ人をみて政をまかせ
たりけるに傳巖の野にて見
ゑけり武帝御つかひ出したまふ

海士とよみたるは海あかりとも
とそ聞えしの武丁ハ高宗也
菫花ゆかりあるをもてはつまり
ゆかしきにいふ野の花

田

蕳 菖蒲 龍膽一 菖蒲の花也けり
水更龍膽に似たりこれは菜の名也
とた田をも申すともいふ

風まし はれよもくおもやおもひよらり
鳥羽田のおもへ今やとゆらん
嘉禾九穂新なり　世のまつりことすなほ
なるときあらはるゝくさひ也稲なりと
いへり　又嘉禾ハ穀也　春二月觀て大
平の時九穀ありて合穂といへり
きのふみし山田のわかなへひとなりよ
てんさすよりはなと胡のなれ花そ

道

玉階塵似雪　玉階の地に塵あり
おほかくわりて雪のやうなり
それの戸をふさんことにむもとみつゝや
沙みなかく家ものあるなす
今日中衛士　尭樽文ニ可逢ス
尭のとれ天下みちあるをいはんとよあん
る人これもかしこくすゑつくはあさしもあ

てしけるに荒れにしかはちまちにて将海
とまりし家のちきりしゆふさすくは
その名くえてえらりとあり
これのとはさうていかしにかゝる絶え
みちある御代にあふつきせぬ世

海

百里大鵬飛　小海は大翼の翅

とありそれせかいのひろさをさして

百里といふはとをきとはにの翼代ともある
とあり其名を大鵬と云六月の気に動
きて南にむかふ一度翥に九万里
いふ海といふなり
越の海そらとふ程のはかりなれ
記いらしそ底にみてきれ
珠合明月暉　海中にありはしきなり
蚌蛤あわふしく明珠あるはしとそ

小鹿島月は望あるに合ひ月
の清きことまさるもし月の月は珠
こと色なり蚌蛤珠をはらむ
三ケ月は氣とひとしく珠を
孕みて充ちまさるなり

江家漢錦浪動　數の織なる錦
宮こしらなるに流れて

婦を洗ふ水清くして文あるか
ごとき故に錦里城といふ江の
人のすまひ多くして織ることを
好むこと三月は桑葉を採
花は水に浸す蠶の蚕を
清如白馬素　伍子胥
大江のほとりに靈水神あり
て白馬素のごとしといふ

孟波に出るの所なり
ゆえに名付て孟波出るの所
河　河出崑崙中　崑崙山の南より
出て流れ西の方に流れて龍
門を隔て流れ出て
崑崙山の北に流れ出る
河

波の出る所を以て警めり
ゆえに名付て孟門山
徳水千年一度清
黄河の一名を九
曲と云一の名を黄津と云り秦の
文公の時黒龍終南山より出て水
と成て黄河に入て徳
水と云り黄河は九曲を過て
一石の中に入て海に入る一年

八沼をとるすべくこの年より一度
をとりて沼をとりたる水を
多く田畑とへ配分りとれる水
をむとこの
水 此多くもまるを水をすべる風俗のごとく
うけやとすべくこの年
治 元禮朝(トヤス)仏者(ヲ)後漢の孝應(ヲウ)寺
元禮とこの部林宗洛陽にきこえ
あり元禮称んとしたがひ
ひとりこの文徳をもて後よ
郷里ふかくきえ礼と林宗とを
つるよりて河とよ浮つる仏の
傳士長冠とくもとしてこれを
ゝる人称仏なりやあるもの
陳王覩羅人(ヲ)魏武帝貴三代子曹植(ヒヲナ)

治神賦云我京城之東蕃有
[illegible]の
[illegible]
[illegible]人[illegible]御者[illegible]
[illegible]河治の秋[illegible]
[illegible]
[illegible]月を隔つ如し飄飄[illegible]
[illegible]風の雪[illegible]
遠くなるかは共の羽の高よの

[illegible]近くみまくほしきす
[illegible]
[illegible]清流[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

山路のすゑ[illegible]
風[illegible]

百詠和歌第三

草部

蘭　菊　竹　藤　萱　萍

荻（荻ヵ）　芽　荷

蘭　廉室重招（チ キ）尋（ヌ）　易曰君子之

くすの人蘭の久しくかをりき

うるはし

ゆちとうなのかうに寄れみおもれ
てるかうえんをおしまりひなうん
雪蘆楚王琴　家もむしり遠くあ
ゆうとうとうしうしてみ酒をしまされく
人の家ふ立入きりあるかしあるか
く家もと堂とみとんとすきたた
う堂下ふすゆんとすきひとし
ものあるよ蘭房とはかりく

其中ふとくく歌胡琴飯琴とと
ひてうとうと家もむられとひとて遠蘭
白雪北曲をすみ人落涙とりよ
りうと事ふ
家れいかふ雪氏ひとの高ふ
なうりふあかふ涙なら事利

菊　金精九日ニ同ジ　菊は花の文意ふう

故に金菊と云りし秋なりしこと
京西の金殿菊の九月九日に花開く
こゝの花とりあつめ
なる月はれ去りしもあとはれ出ぬ
らぬものとこゝろれのまゝ
霧(スイ)廉寒潭側 霧廉こゝろの形
南陽小菊潭水を取く酒に
くさ月時し其して志ひとな

作 蕎麥合曙紀 呉都賦云作則
緑の葉い青きくきなりしもとう
一雪とうもむ檀樂と海とうに蟬
作と胡麻南陽北菊水とうて
命長しいす金とうり
白菊はそうしいうけうを
志作えけうて蕎麥合

蹟（ハタ）ヒ　とうとうあり　精霊（コトヤイ）論解（コトヤイ）

弟能遠（コト）

言うまでもなくそれはとりあく

りかあきらかに竹の上に陰

陰知湘水上（ニ）　流淚獨思君（シ）

堯は二人のおじょの娥皇女英を

乃ち舜

人湘水のうちに哀哭淚を落こ

と自然とうつる竹に淚竹の斑

ふりかかるひとしほ色濃くて

ましく湘水よりの海を見て

とうとう湘夫人を思う

ばうとする物ひとつ

竹のもとに紫雲を淚竹

藤　神農（ハ）霄（テ）藥（ミス）霄（ミス）　永濃縣に有る宝

為体農家ニ（ト）前有吳茱萸（ゴシユユ）雲日中俗
晡（申時ニ）黄蕎麦赤豆之外農民者
となりて民業に勤り千金家と
なる昔南部の仲恭の母病み沈め
る山に入て菓を求めしに忽
ちに老きかせしとなる未だ
其末を知る者なし長氏者と
なりて人々毎に病を
ちまちみのるとなりて紀行
でいらるゝ仲恭こゝにて母の
をこたりしを聞則いそぎ自余
某命ずるに
某とせり
有源の山にうつせば
まりの人多れども
死命行業盡（ツ）西域（ヒツキキニ）有北面の山

きさんのまにいふつる萱葉菖に似たり
花とこゝかきうりにたるかくれ
文ありこゝをとゞめ盃にゆくまゝ昔して
えひはけりて晋張騫大家によて
ちまをとえてる胴は人酒をまちて前
のりしにかくられはつきてえひは
さ酒とて野人前の花を酒に浮き
里みえはあり何葉の酒といふ

かきみくむまれくまりしのまはらまて
文こんは前はこれのさくつ歩

萱(クワンヲウ) 忘憂自語襄(シ) 萱草は一の名丹
棘(キヨク)とも丹棘ともいかく人憂をこゝろ
忘憂草といわれなり 瀛(エイ)州に生る名
長楽(ニト) 即萱草なり
野色の文に秋の心をうつし萱草

しの根をしてきりけるを
香傳坊女風 管格日てあれば
河とるくいてくさかりの命下命樹
しるあ坊女の風あるとい生しるを
わりてくさうて西方さり西方と
坊女やと西北風ふこと白うの
なり豊年の香仏風あかるこうり
玉津風ことあり北神代ちくくなり

神武東北ちのの代ちくく

薄 二月虹物見 二清ニ機十アリ正浮
ちれ年に西宇あるあきなりと
蘋と云うれを鬼神ある風蘋
北ちあるあるの代薄という
命り虹 三月北の後十日ふ物く
尺て十六日ふ薄物て生十月中北

日ましかはるとかの虹の物て
みゆるとき薄氷生ずるこれ二月の字
なるはつるかの二月とるふる遊下三
字也又三月に獲物て前月より稍同キ
也とこれ又云三清にこれ名なり
又云浮蟻ふるきさけなり虹物てこ
ゆるとき薄氷なりと云
是此多のうるひくかたかなみ

風そなるとかの池のうるとき薄
氷隨筆春遊菊小より也
此事嬉人の泥水海のうるとこれ
物也くる是此泥海のうるとこれ
ゆるとき氷なるかの也

義　東洋春酒通ス　志明録曰氷ヒ
きて後義始て生ずる也首東洋郡

のうちよりはじめて
よくうちとけ
みるくんよりはじめ
ひとりの
なり世日子不関荷長恵等事
ゆかれ
くるくるしてなる
いりのすまるのいのうちを
潭花鏡中に
ゆうちけ

裏ゆひしれ花
ゆかりの花
ゆかりの
ゆうしうる
ゆかれ

月　歌識東陵味　青門五色瓜

秦東陵侯部平
つて

東門のかたちは蔵を作るまちなり
みぎわの時は柳を植まちなり東青
也又遠東盧江鄉燈の文○鶯
てかはさなりまし如鶯青うまはこ三年
又蜀郡作○はあるなるなる夜よ冬
ちをはりまし若ちくしい回ちまちり
諸張のちまちはなるまちとちり
門田ちはいかなるまちはまちも

心のかたちはいかなるまちなり
龍蹄遠蹄履蹄花はあるまちはなり
女脂花年角花龍蹄花とちり花田
よ履とちはちまちはなるまちはて
ちんやすまいは花ちをちんとちはよ
みちり

職人のちはいかは通しはなるまちはよ
ちはのまちはふ屋はなるまちはも

第

堯帝城茨羅　帝嚳子堯の帝

にて後人の貴と学て殷ばんにけら

ありける帝茨をもいさぎよきまつりごとを

なりけり朕茨をかけしか巷

とかさみにてま十八年命百八十歳

みしてかられにひね

かりよしれせなんりしらせ代をて七見ん

あやしかるさき草のつかれ

殷湯条雨旋　殷湯九代の九年日

てりあつきく世中うせなんとせしよ

殷湯政のまことを申ありへ天に

うめ給ふたるんとさうりて我が命を

うつひく天下おさめ給ふとてつる

しかるんと代思く斎戒のよくし

て白身をまるひく身を火にまそはして

雨とまりるよ面ほとんどうまり牡
とく白芽して浦はしものを
海芽生えかつて白れしとい
なりてとまりして梅ちりうを
荷　奥蔵排(テラ)湘葉(シ)　詩(ニ)云奥蔵新(テ)荷ら
うとうり湘葉いあはき紫を
風ふりてなまりる池の荷うを

うれ紫ちうしいうとうしら
亀浮見保池ニ　千歳ら亀荷は葉
のよう稀ようりと亀じまれて三
百歳をれ百ようを歳のよう荷の
ようとあるとうり
荷葉は池みとむ亀は
をふりもあるれるうり

百詠和歌第四

嘉樹部

松　桂　梶　柳　桐　桃　李

梨　梅　橘

松　鶴　栖　若子樹

[illegible]

皆松落時松獨緑なるものなり
文化年歳の鶴松松樹なりしとなり又
若子樹あるとそのもの松なりしなり
又昔業陽郡のみなを石志
宮あり後水一位の松の十おるあ
るこれ宮ものなり書まあるもの牧石巌
なるて他して落たるなり落一位の
ひとの其ひ物て其代なるなり

風とし山の露は此八月より毛ずまれ
いまのうちなれ生の此なり
風物之変枝
秦の始皇秦山の事
しなれ乃ち俗ちの風面あるひく生
北下海ものあて面代なるなり海
ふ立の松樹ふ位きて文主樹
とうり
あ皆いの所ものなり此生なり枝ふ

あをくみの玉浪一しか

桂

花満自然秋　泰山のよそほひ
林ありて秋をむかふるにかれ白く
盛也
風の秋家まれにはひとつ河辺のれ
かつらの里は秋来て本あるかり
仙人葉ヲ作ス舟ト　仙人のこのは葉の舟

むかしの黄帝見浮葉乃為舟也
かつら河木葉の舟にうき流して
浪をこえつゝは山おろしのかせ

槐

暮律移寒火　冬は槐檀の火を
きる也又槐樹の火難消之祥となる
きるは又十月上巳日槐子を服
人長生を得るといへり

[illegible]

雪のちりつもるまに

梅市の学館名人月

鴻儒訪道来

ことに明年設をしるべきものの

くの儒士梅下に来集て倫秩

をなす市をなすがごとく

花のちりしかりみちあるがごとくなる

こゝろしる人のみちもなきまに

柳　樓陰業如雲　柳の花白たゝて

雪のちりつもるがごとく

いとはまし月ゆきかゝるかの

ちりにしかりのさみ柳成

夜星浮龍歌　北の宿れ中ゆみ柳星

ありこれ星みれとゆあり柳の美龍

乃鐘よ仙ちりとゝり

[illegible]
雪の消るかと見るまでに　柳

桐

孤秀（ヒトリ）　澤陽（エキ）山人桐とは
て琴瑟よりはなるゝ音ありけり

[illegible]
[illegible]山の[illegible]
身のうしむ秋　芭風のたとへ

秋葉飛蓮（シヅ）　周徳を戴く桐の葉
をきりてなりけるとて弟農より
[illegible]事ある時人天の[illegible]言ふ
龍門山より桐ある道ゝうとて人
[illegible]
思ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

桃

嵗露似帰粧　果実強壽

[illegible]人[illegible]ありて[illegible]眉帰粧

[illegible]

[illegible]

[illegible]桃花の[illegible]

[illegible]桃花の[illegible]

百病を除きて[illegible]

胡麻[illegible]

[illegible]花の[illegible]

[illegible]多くなる[illegible]

仙人路断長　晉大康の[illegible]武陵

の人漁[illegible]谷に流れ[illegible]

失て桃林の[illegible]

[illegible]百歩[illegible]

昔花開天[illegible]落葉[illegible]

[illegible]

行ひ[illegible]おかさるゝ[illegible]ら[illegible]ゝ[illegible]と捨
てあのゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]人の家ゝ田有いり
行り業行ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]河和[illegible]
[illegible]風[illegible]花の[illegible]
[illegible]
特用表真人　老子[illegible]の[illegible]人事
氏が楚國若驍屬郷の[illegible]流罪
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]周定[illegible]三年[illegible]卯二月十六日

卯河[illegible]李樹の下[illegible]
[illegible]李樹[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]中之年間[illegible]
[illegible]くに青牛に乗りて
西に越てこれを四葉仙の所為とい
ふ[illegible]くに老子[illegible]出給事九重
いまだ[illegible]と云り黄帝のとき天花
といひ帝堯の時に[illegible]氏[illegible]その一和
[illegible]と云り周[illegible]敖[illegible]の時に伯陽
といひ[illegible]に[illegible]と云越王勾

踐はじめて[illegible]泥壁[illegible]と云斎の国ふ
てい景云の代景平仲と云漢の世
[illegible]の[illegible]荷といひ文帝
の時に河上公と云武帝の時に東方
朔と云り又説云伏羲時に株爵[illegible]神
農時に[illegible]子祝融時に廣壽子軒轅
時に[illegible]子顓頊時に赤精子帝嚳時
に緑圓子堯時に務成子舜時に尹

壽爲時号寓有真子湯時号錫則
子又往文王武王爲十二帝師
ひきそもり花の末にやそらまた
すらしこうの如ひあるなり

梨　秋来葉早紅なり此葉にまた
らてくれるみ也　詩云　梨紅大者
晩トいう

仲七月やつて来る風はそよぎん
かつらをまみの行の浦の
還魂識張云
後漢の文武帝の時
張云夏なりと云ふ国中に是を
きあるゆへみ門にうえて
掃ふ人一角ひそりとそなふ
そうひをなれ末未なりきり

梅　院樹殿寒苑　梅花獨早芳

ようの花は梅花は年
のうち雪の底にうもれ始る故
紅とまとめ
雪うもれそうもむ柳も梅を
まつ春の年の梅花の花
若枝長止潤　魏の武帝軍旅を
吹うしして古辛みかうひうく

以中うく武帝は軍を
うれは梅花のうもれもと
て雪味長うしてうを屋も
ひうの時に人ふうれは
中うかうとうう
梅のうち思ひのかうくうみぬ
すぬと梅は花はうれうう

橘　千株布葉繁　李衛（リヤウ）江陵の千
株の其橘うへ〳〵の李衛とてうゑ
そめくるふ云ひられ十ヶ所奴にて橘
を植て年ごとに綿一疋と称めて
と手頭末奴と号せんと云ひ
ふりて海に沒て知りひとれきる立花乃
まちひい家は此風のこと利
玉藻合霜調動　花橘白きそ海北
う多ふるとしひの人ふ家と合め
新よ沒ちうとちう
吹風よ知ちとよ家や千花と利の
花ちる里北ふ庭乃おもひ

百詠和歌第五

靈禽部

鳳　鶴　鴈　鵠　鷺　鳥　鬼　鸚　鷹　鷲　雀

鳳　有鳥自丹穴　其名曰鳳鳳

丹山は丹穴のかたちなるべし

ときわと鳳といふ

又鷲と云う鳳凰あり鷲に化して
云う天下を治る時あらはれ出る
と云う黄帝の時に河流の時あらはれ出る
又鳳凰と云う時は世
有舟山にあり
色と云う
山鳳乃和名抄もあり
のちの人はしらん

九宅應靈瑞　九宅は一は定命二は
合德三は福德四は屋中五は延壽
六は蔵碓七は社稷八は音教九は
服有文あり　又鳳の形は雞の如く
頸は蛇の如く背は龍應は鷲鵠鶴乃喙に
龜は背龍應は鷲鵠鶴乃喙に
とも云う
如き山は其の本末は

心のまゝに立ちのぼる

霧　朝朝一筋里　驚かし時霧は

はるゝ百里はひろまりぬ

野原のゆくはたゝ穴みかひろん

雲井より霧のあとをたちかへん

来去幾千年　遠東城門は白き霧

某まちはつゝれ物ゝ矢していんや

長安の霧ゝ穴よりはいせ

もゝ丁合歳家と三千歳まいま

ゝ高き城郭ゝ山なりゝ人

民ゝ代ゝ穴ゝ何紀をもゝ穴ゝ

ゝ三千代穴あまゝ里ゝ時霧ゝ

夢ゝ穴ゝ穴ゝ穴ゝ

鶴　日路明光急り　其中に立れり
らすあるを鶴の精といふ
いまて天に上れり
をか明日と立ちたりけり
白首何年成ル　燕太子丹秦に入れ
秦ら生く却て人事と知に
為れの白かり馬に角生れ
ものを命とて太子

丹天に仰く歎くに紅白き鶴来
生て池に歎くに角ひる
る事なり秦王驚きて捕る法
いと生る
所を尋てやまうす
天に上る人なりせて
鶴　蓬瓢畏風急り　うそ鳥の風れふ

[illegible]

事風をもつて[illegible]

[illegible]風のもとゝなんとゝ

[illegible]の枝をすゝぎ風の

[illegible]ゝかんとゝ[illegible]て[illegible]れ

枝のもとゝ[illegible]るなり

[illegible]

[illegible]

[illegible]風[illegible]

結随織女帰（ケツズイ　コトツ）　七月七日うゝ[illegible]て

[illegible]天河[illegible]

織女こゝを渡とゝ

[illegible]

[illegible]明[illegible]

[illegible]

鷹　春蓮満朝方　帰鷹叢衙陽

[illegible]

うしなわるる秋の月みる古人はまて
ぞ[illegible]ありて[illegible]晴氣をしる人多
即ち[illegible]家の朝夕ハ衡陽の南辺
の山屋の氷とりて南に[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ていハ人間の又晨鳧[illegible]雞屋
衡蘆[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]

寄語鶏鳴伴（モニ）
莊子山林[illegible]
まとさうの和ハ（カラ）[illegible]
ゆうるまとしきすの人の家ハ
屋[illegible]ハ家ハ[illegible]
とうちんとハ一[illegible]
とうとうハ[illegible]
とかしんしつあ[illegible]日月ハ莊子ハ
中て[illegible]

[illegible]

家北ニ入ル[illegible]なるといふく能

なりされを[illegible]

[illegible]

[illegible]荘子[illegible]谷[illegible]北中乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鳥　鵶沓（クツ）睢陽渓（ヒヤウリ）　鵶沓[illegible]

[illegible]睢陽北園乃中ニて

鳥居北池を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉喬（ケウ）峡（テウヨウ）写真

葉縣（ケン）の令王喬渡漢

乃人也能術あり葉騎しりみを
ふまつるとしもとるるは
まなく角あり此鹿のそと
又ものもしり其ひりの大さとして
れをうかつむ網を張てま
此中二のをもおちて一雙此ろ
とたちぬ
又曰此雪氏あるのちりあるいとて

如ものかなる此をうあるり

鸞　聲分析柳吹　篇析柳此曲わり
又落梅の曲あり鸞乃孝とまふ
かりとをく鸞此孝管ちも
ちなりとたり
うち龍を此ちる源の孝柳此
とのとちりそうち孝そう

遷喬若可奥（オウ）　遷喬響遷鶯

黄鶯のひとりうたをきしてとなりよ

りとなりて高木よりうつりゆく

鶯のなくをきゝてみるにはつかの夢

なりけりこゝろの雲はれてこゝろ

の水もすみのぼるこゝろ

雉　白雉振翅（ツバサ）　龍来表天平（ヘイ）

白雉ハ人の世いかに則天下平ク周れ

武王のとき越裳白雉を献ずる是

天平をあらはすなり此時はたゞ

十歩より一度啼りあゆみて

ゝひ飲とゝりて

稲さしをのゝきすあるゝ間鳴ふ

ゝひとゝりあるかなりあり

楚郭（クワク）凝風出（アト）　楚人小雉をおひ

て通ゝ日ゝ居かゝとゝ同楚人

[illegible]
[illegible]
楚王に[illegible]んと思ふの則十金を[illegible]
てこれをとりひらけるに
一石を[illegible]くしるしを立ねば[illegible]
[illegible]ひらむるなりとの事を
いぶかりのつ事れば楚王ふ
[illegible]ける[illegible]の事をうけ[illegible]病[illegible]

楚王これを事[illegible]
[illegible]て志をかう
あつまりひて十倍の金を[illegible]
[illegible]
[illegible]代よりひろ
[illegible]の[illegible]
[illegible]

蕃　長池涙時雨　長池の[illegible]
零落の上に石蕃あり雨ふれば
則ちひろまりとなり

ぬといふ事
なり
高津風雲とこの
ものいとなれ
ばしはしんきしたり

相笑雖抵側（テラユイシテ）　淮南子曰大廈成而
鷰雀相笑湯涙眞而機風相弔（ヒロコヒ）（トヒテテ）
我ことを
軒に作るものなりとの事に
なり

雀　入幕應王猩（ス）　王猩まゝ母を
作らんとて
思ひ煩ひ病あり
なりと
なりとくられと
義て幕にうちに入王猩
母のあること病
雀つるとそれ
あさうに

王猩まゝ母を
作らんとて
思ひ煩ひ病あり
なりと
なりとくられと
義て幕にうちに入王猩
母のあること病
雀つるとそれ

こと[illegible]
朝[illegible]遊水僧 [illegible]治長[illegible]に語と
指り[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]獄の使[illegible]と同[illegible]
[illegible]治長[illegible]
[illegible]遊水の[illegible]に有事
翻霊[illegible]棄指[illegible]牛に[illegible]相將

使喝と云り
[illegible]
[illegible]

百詠和歌第六

祥獸部

龍 麟 象 馬 牛 豹 熊

龍

龍は春分に天にのぼり秋分に水に入るなり河内の蛟龍とも雲をおこすと應龍とも龍のなり

蟠龍と云いまことのりうにあらず墻壁
やいふ
衙(ヤツ)獨(ヒトリ)趨(スル)馬都(ツ)　馬都はあるは用
れ玄りかうもしりるうひるう龍と
りうをうくて照さりうふの
あきらふふうと龍の玉のふ
ふまりみ玄龍は用と玄りくとれと
玄りうと　用とは　ゆうふはりうきう

あれとやくりみちれ文の紙り
ふれうと屈をしはりはりあを
合章擬風雛(ツ)　徐真云仙蓋亮が龍
ありり龍士元風雛うりと風ふ文歌
わりと鷹は龍章ふはりはりは龍と
風歌ふかうきう世說云陰雲十五
歳の時周浦うきとうとうとうと見
いり龍動ふすいはうと風雛

[illegible]
つかさとなり
色かとりまとめ
龍田の[illegible]

麟　牧と麟とを牧と麟とをとる云
藏屋敷の麟と云麟馬足黄色国端
角端有肉と云麟麟闘とは則日月

蝕と云と云腐の牛尾一の角也
端あり云と云麟麟は仁獸也王者仁
あるとせよ[illegible]と云色色と云
十麟麟と長とすと云麟風龜龍と
也氏四靈と云と云合仁懷義あて
物を生と云[illegible]
[illegible]
[illegible]

成(テ)角喩英(ヲ)文とする物半ば
をうしなふとも道ふ長ち
物い麟角はなしとふり
ゆうを草うつくしとなるとも蕪
けのくむうらめしとものゝ
畫像(カキテ)除(ノ)仙閣(ニ)　漢の功臣八將
麒麟閣にうつしとゝ

劉(トウ)禹　呉漢　賈(カ)復
吟(ヒン)歌(カ)　漢(フチ)異　朱祐
蓋(カイ)延　銚(テウ)期　耿純
劉陰　馬成　王梁
傳俊　堅鐔　王霸
萬修　邳彤　劉植
王常　李通　竇融
此四將とゝ

耿(コウ)弇(エン)　寇(コウ)恂
蔡(サイ)遵(シヨウ)　景丹
耿(コウ)況(キヤウ)　馬武
陳俊　杜茂
任光　李忠
已上廿八將
卓茂
とゝ廿二人也

又麒麟閣の功臣

霍光　張安世　趙充國　魏相

丙吉　杜延年　劉德　蕭望之

蘇武　已上十人

又云天下の秘書麒麟閣にあるもの

いまの麒麟　是をいふ

あるかの流をいふ　人の

うけとる所の人あるべし

象　萬推官濱夢　會稽の張茂先に

大象をみる萬推官とて云ふ象の獸

也ひとりの志ある寺の沙彌寺にか

ゆくことを張茂先云ふ象に有牙

業を明にしめすことをいふ

いまの則是真太寺をいふ如張

王敦ゆくをいふ

[illegible]

恵子正樊書　[illegible]鴻雄[illegible]

[illegible]百余日法士と[illegible]

て[illegible]酒を[illegible]

[illegible]人を[illegible]問[illegible]酒を流て[illegible]

[illegible]歌[illegible]博物志[illegible]

[illegible]昔荘子女[illegible]

恵子帝荘子[illegible]人[illegible]

[illegible]路して[illegible]

恵子の[illegible]を[illegible]荘[illegible]人

[illegible]して[illegible]生

[illegible]

[illegible]

[illegible]変

して[illegible]変して歌[illegible]

歌変して生[illegible]

ゐ生ひたちし所に出家の時より
りとつて所を出十八ゐんとうう
所なのうとおもとしてみれ家おもと
なりゐみ所を出てうつ大家こ
おもとばみてそうをちうくもの
所すうくいつ出のんとうたう
惠ゐこう生をきて則それ書を
屋うんという所を倫ゐみうう

書とうんやうつ家おもうら
しうるゐ事所命
いう草おしまを煙とううゐ
ゐんとうつそいうやうな

馬　天馬来ル従東　漢武帝代大宛明
得千里馬とは天るゐはうう
所うを国云天馬来ル従東道と

なり

吉書始の開はて千里をゝえ来りて
那よこゝ海の雲風
蒼龍遥遥日ノ　蒼鷲迥迥風
蒼龍世之尊遊首追風ともに馬
地ゝ氏事日ともひ風ゝ海ゝ
海ゆゝ海ゝ馬とゝ海雲ゝ
とゝ月ゝ海ゝ海ゝ海ゝ

はしめゝ
いゝゝゝ海ゝ海ゝ海ゝ　こゝ

牛　高諏訪入相　窟嶽奇岡ゝ
ゝゝ極ゝ海ゝ海ゝ窟ゝ窟
嶽牛代車ゝ白ゝ白ゝ
奇て立南山条白石畳ゝ
竟与舞禅短布単長徙ゝ新長夜

縛し何時且といふ事を極ムる事を
て賢をやうそ相とし
あるれ之る所代みあつを所れ
うしといひくしもうひるる海
不降五十士 如何九折道
秦ハ惠王蜀の国をうんを為る
ふみち氏金てんのかつをなきひ
じあるす玉しうをとりて
石ハ牛を作りて之を金をれ
きそしそしに作りひりをうり
とうつかれ手後蜀ハ国
の人ハ牛氏石牛天をうく
うて糞を金をあるうと思
金り則ち人乃力をて山氏
きり牛を乞くうう米やま
多てけり通ハ秦氏

相張儀を法として石牛の勢を
みて蜀に出ずるをうかがわしめ
ようかの山谷のかなたに千里に
うえに充れるうきたりて

鈞 葉加津加賀 タヤカヅカ

虎鈞鄉 いなかを犬羊
乃鄉に入ることいまだ虎
鈞犬羊に入ることいまだ
ならずを知らざるなり
巷を回し巷を出る犬羊
ふたたびうたうと鄉つく
ものなしなり

山下風 はかることに葉のふるうて
ものの測ることをいうて波

若今逢霧雨 長隱高山巷 ナトリニ

陶谷子 三辛 ものしらふのうたうとき

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]書[illegible]
[illegible]
[illegible]

思ひつゝ如何なる害とかいふ
ら是則菊子よりいふことなれば
くとも菊子作なる害にあひぬ
山ふかき雪ふくまつ雪物は
あとなしと角くをもて知べし

能 春日館前 西京雑記云雍宮別
館可六所あり漢武帝元鼎二年
月幸

春射能館よみ人しらず
梓弓をかのうへにいるさやま
かつらかはのもみぢをぞ見る
猶奥飲清泉 真壁実帝と改泉
よみ人しらず 一対能羅前駄
こゝにいるを御とかるゝふるあやまち
ひとくにの川ぞ浪のたつとよ

鹿　奈良花開舞高座　西国巡礼

西国巡礼の中に奈良花開舞高座あり
ふるくより此所に立ち山はあり
鹿王すみて居たりしかるに日一
日ふるに鹿王敬ひて鹿に
乗て使ふ人くらんとすると
ふ一日此鹿を殺さんとせ
ばうちの
ちの命をの命を
殺すべしと申す国主此事
如何なる則日ごとに一人づつ
出すべしと鹿王は殺されまじ
ばあるべしとて鹿を
殺すに到て殺されまじうの所
とりて今日の一人の人を出
す命を行ひ

乃後ハ此命ハ
ものなれハ此ものを
ハ[illegible]ん[illegible]
[illegible]命と婦事の仕も同事也此日
ふ[illegible]ん[illegible]を[illegible]
と答て[illegible]ものハ
[illegible]の[illegible]
の[illegible]

此ものハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
婦ハ事の[illegible]
[illegible]事の[illegible]
命を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

多くの門人ありしかども
しき同輩は廣まはらぬ事と
門人多き家と云ひ家と思ふ我いこと
歌の人なれども心の廣なり世に
歌と廣まれども心人なりと養て
なりたる人なれば
とうり生れ
言えん人なり行ふ
うり廣まり

子孫四人ありけれの命代
方懷大夫志抗年別心期
子高と云人趙の学者
の容鄙文節と
高晉はなりて
と行むし文節
三宿文節
てこと生を術と子高と云人生れて

有四方志尤底武而常親寢
うゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

羊

跪飲懲濃信　[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
跪飲　孔鵠有徹時　懷虎有庠

序　儀人元法等
[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

他人擁石去
物羊の他術ありて
[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

[illegible]東より行かと者りてみるに
白き石のあるこれをもて此石に
みあらとて[illegible]物等切て羊と
[illegible]石をくゆらして羊となる
出るいて[illegible]石と羊躑躅云
羊[illegible]とんそ仕も[illegible]躑
躅かあ[illegible]ふとしむるむ[illegible]
羊いるし[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

菟　同隨梶葉長　梶生是入寄春
五日而菟(ニテ)の同十日而鼎(ニ)の可(ヒ)と
命ず
去りゆんみるに[illegible]
何かとそむ[illegible]

漢月澄秋色　月はやうやう光
あらし月の陰の精（せい）なりけり物のあはれ
とはゆへなりけり
吹風の雪はしらをもしらぬ雲
月のうちなきまで秋をうらむ

百韻和歌上巻終

右一結禅侶生涯易暮疾物白駒
之過金命難保朧月電光之宿
霧今生空夢之来世已近叢鳴鳥
鐘之余響聚散無妄想之暗作摂
之威力和光接暗之晓乃玉金堂及
法界

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan